

またスポーツイベントを活用し、ブランド力を強化していく計画だ。

同社は昨秋に「ファルケンカフエ青山」を期間限定でオープン。今年に入ってから「東京オートサロン」で10年ぶりにファルケン単独のブースを出展する

グローバル構成比3割へ

ファルケンは、旧オートツタイヤがスポーツタイヤの旗艦ブランドとして立ち上げ育成してきた。当時からもっとも過酷なツーリングカーレースとして著名なニュルブルクリンク24時間アプローチを強めてきた。

一方、海外市場では米

売促進活動に取り組んできた(山本取締役常務執行役員。ダンロップにフォーカスする戦略を推進すること、ファルケンはややもすとセカンドブランドの位置付けとなった感があるのは否めない。

19日、茨城で「青年部協議会」開催

今年に入り、東京自動車タイヤ商工協同組合、茨城県タイヤ商工業協同組合が相次いで、自治体との間で「災害時等におけるタイヤ整備等の支援協力に関する協定」(災害協定)を締結した。災害協定は、地元行政や自治体が社会活動への協力を任せ得ると判断した団体・企業と結ぶもの。その間に社会的信用がなければ開きもこれと同じことが、タイヤ商工協同協議会が開催される。青年部協議会は、若手経営幹部の集いである青年部員同士、そして青年部を組織する組合同士の交流と連携をより深めることを意図して、全国タイヤ商工協同組合連合会に組織化されたもの。年に1度程度、定期的に全国レベルでの協議を開催し、それを青年部協議会と呼んでいる。

この青年部協議会は1987年に1回目の全国協議が開かれて以来、30年近い歴史を持つ。全国協議ではこれまで、そのときどきの世相が反映されており、主催する青年部の創意工夫を見ることが出来る。

そのような青年部協議

青年部協議会開催地一覧

大会	開催日	主催県
第1回	1987年12月6日	神奈川
第2回	1988年9月25日	埼玉
第3回	1989年9月17日	愛知
第4回	1990年9月16日	静岡
第5回	1991年9月7日~8日	兵庫
第6回	1992年9月13日~14日	群馬
第7回	1993年9月11日	京都
第8回	1994年9月10日	広島
第9回	1995年9月17日	愛知
第10回	1996年10月12日	埼玉
第11回	1998年3月8日	神奈川
※	1998年11月7日~8日	兵庫
第12回	1999年9月12日	兵庫
第13回	2000年8月27日	大阪
第14回	2001年9月9日	愛知
第15回	2002年9月8日	富山
第16回	2003年9月6日	広島
第17回	2004年9月19日~20日	埼玉
第18回	2005年6月26日	宮城
第19回	2006年7月1日~2日	兵庫
第20回	2007年9月8日	愛知
第21回	2008年7月5日	大阪
第22回	2009年8月29日	神奈川
第23回	2010年7月18日	静岡
第24回	2011年9月18日	埼玉
第25回	2012年7月14日	宮城
第26回	2013年7月14日	兵庫
第27回	2014年9月13日	愛知
第28回	2015年7月19日(予定)	茨城

※当初計画されていたが、諸事情のため次年度に順延

存在感を示す絶好の機会に

この青年部協議会は1987年に1回目の全国協議が開かれて以来、30年近い歴史を持つ。全国協議ではこれまで、そのときどきの世相が反映されており、主催する青年部の創意工夫を見ることが出来る。

そのような青年部協議

この青年部協議会を、茨城県組合青年部が主催するのはこれが初めて。今回は「タイヤ組合のあり方」良い点・悪い点を意図して、全国タイヤ商工協同組合連合会に組織化されたもの。年に1度程度、定期的に全国レベルでの協議を開催し、それを青年部協議会と呼んでいる。

この青年部協議会は1987年に1回目の全国協議が開かれて以来、30年近い歴史を持つ。全国協議ではこれまで、そのときどきの世相が反映されており、主催する青年部の創意工夫を見ることが出来る。

そのような青年部協議

し、また欧州車へのOEM化に採用されるなど、グローバルブランドとしての実績を積み上げ、その地歩を着実に固めてきている。

住友ゴムの全世界でのタイヤ販売本数のうち、ファルケンブランドの構成比は20%。同社では、グローバルに展開する。

新たなステーションに立ったファルケンブランドを全世界で積極的に販売活動に取り組むことで、2020年には全世界でのタイヤ販売本数の30%までファルケンブランドの構成比を拡大していく方針だ。

軽自動車大

上期(1~6月)の国内新車販売台数は前年同期比11.0%減の267万6634台と、上期としては2年連続の減少となった。うち外国メーカー車は同0.5%増の14万4639台、日本メーカー車は同9.2%減の2万2558台となった。

6月単月の販売台数は前年同月比21.0%増の3万2903台で3カ月連続のプラスとなった。



箱根山太浦 谷、口永良部 島、西之島と、日本の各地で

軽自動車は15.4%減の104万5456台と大幅な落ち込みを示した。なお、上期の軽自動車の比率は39.1%と前年同期(41.1%)より2ポイント減少した。

6月単月の新車販売台数は前年同月比2.2%減の44万2631万台と、6カ月連続の減少となった。こ

火山の噴火活動が活発化。太平洋上には3つの台風が発生し、日本列島に接近する可能性が指摘される。自然の力は人智を越える。自然災害はいつ起きてもおかしくない。そのときにいかに被害を軽減できるか。防災とともに、減災への取り組みを進めていくべきだ。